

新しい銀座ヴィジョン

未来にわたって銀座が個性輝く街でありつづけるために

GINZA
Machidukuri Council



主催 銀座街づくり会議／G2020



連続
シンポジウム 第4回

変わりつつある都市の街並みと建築

～変わらぬ建築と激しく変わる広告媒体との調和～

2017年春、銀座6丁目に新しい商業施設「GINZA SIX」が誕生しました。

銀座街づくり会議・銀座デザイン協議会では、銀座では異例の、街区をまたぐ大規模な建築物のデザインについて、約10年にわたり協議を重ねてきました。GINZA SIXのデザインを行った谷口吉生氏は、街の人々との丁寧な意見交換と協議をふまえ、「ノレンとヒサシ」という明確なコンセプトによるデザインと、多数のテナントのデザイナーとのデザイン調整によって、世界的な建築デザイン評価にも耐えうる建築物全体の統一性と時間的な安定性を創り出すと同時に、日本の伝統的な街並みが持つ、よりソフトで流動的な街並み表層の変化にも対応できる優れた建築デザインを実現しています。この建築が街並みに提起する課題とは、どのようなものでしょうか。

日時

2017年5月15日(月) 15:00～17:00
(14:30開場、受付開始)

場所

銀座フェニックスプラザ 2F (中央区銀座3-9-11)
<http://www.phoenixplaza.co.jp/>

参加費無料／定員200名

※定員に達し次第、申込みを締め切らせていただきます。
※誠に恐れ入りますが、1社2名様までとさせていただきます。

トーク
セッション

「街並みに建築家が果たす役割とは？」

谷口 吉生

(建築家、谷口建築設計研究所)



©Timothy Greenfield-Sanders

慶応義塾大学工学部機械工学科、ハーバード大学大学院建築科卒業後、東京大学都市工学科丹下研究室を経て、谷口建築設計研究所を主宰。主な作品は、資生堂アートハウス、東京都葛西臨海水園、豊田市美術館、東京国立博物館法隆寺宝物館、ニューヨーク近代美術館、京都国立博物館平成知新館など。日本建築学会賞、日本芸術院賞、毎日芸術賞、村野藤吾賞、公共建築賞、高松宮殿下記念世界文化賞など受賞。

豊田 啓介

(建築家、noiz主宰)



2007年に豊田啓介と蔡佳萱のパートナーシップとして東京で設立。2009年より台北事務所を併設。2016年より酒井康介をパートナーに加える。コンピューターショナルな手法を積極的に駆使し、建築デザインやインテリア、インスタレーション等幅広いジャンルで国際的に活動。最新デジタル技術のデザインやファブリケーション、システム実装等に関しても、教育やリサーチ、コンサルティング活動を積極的に展開している。銀座ではIssei MiyakeのBaoBaoのビデオ作成にも携わる。

司会進行

小林 博人

(銀座街づくり会議アドバイザー、建築家、慶應義塾大学教授)



京都大学、ハーバード大学大学院デザインスクール(GSD)で、建築設計・都市デザインを学び、日建設計、ノーマン・フォスター事務所等で設計を行う。2003年GSDからデザイン学博士号取得。小林・横デザインワークショップ(KMDW)にて国内外で建築・都市設計、まちづくりに従事。慶應義塾大学では持続可能なコミュニティ再生の手法を研究。銀座デザイン協議会にて銀座らしさに根ざしたデザイン検討を行う。

街中の広告媒体では、ショーウィンドウや屋外広告の概念を超えるような動的な広告やデジタルサイネージの展開が進み始めています。銀座でも、銀座の人々が大事にしていた落ち着いた街並みの銀座らしさと軋轢を起こすいくつかの事例がすでに発生し、その対応に頭を悩ませています。商業ビルのオーナーやテナントが自らの個性を際立たせるために、建築物の表層を動画による映像を含めた広告媒体によって覆っていく可能性がますます高まる中で、世界標準でもある、落ち着いた表情を有すると共に、最先端のデザインを許容してきた銀座固有の街並みとどう調和させるのでしょうか。そして、それは近代以前からある日本の伝統的な街並みの感覚に潜むDNAとどんな関係を持っているのでしょうか。GINZA SIXはそれらの疑問に対して、大きな問題提起を行なっています。豊田啓介氏は、デジタル技術を建築に柔軟に取り込みながら、建築と社会との関係、建築をとりまく環境そのものをデザインするコンピューショナルデザインに取り組んでおられます。デジタル映像や光を駆使した技術が今後飛躍的に発展することは否めない現実です。それによって街並みの中に時間と共に変化する流動的な要素が増えていくことを、落ち着いた街並みの連続性と安定性、ショーウィンドウの魅力などとどう調和させるのか、この問題を二人の専門家の話を聴きながら一緒に考えようという試みです。

シンポジウム参加ご希望の方は、
ファックス、またはメールにて、

5月10日(水)までに
お申し込みください。



FAX

03-3563-0236

(下記のFAX申込書にご記入いただきお送りください。)



E-mail

event@ginza-machidukuri.jp

(①お名前 ②ご所属 ③お電話番号 ④メールアドレスをご記入ください。)

シンポジウム参加申込書(FAX)

お名前	貴社名・ご所属
ご住所	TEL
FAX	E-mail

※参加証・会場地図をお送りしますので、FAX番号もしくはメールアドレスを必ずご記入ください。

「新しい銀座ビジョン」を描くために

銀座では近年、①外国人観光客の激増 ②経済状況の変化 ③都市景観・都市空間の変化などをはじめ、大きな変化と課題が生れつつあります。さらに2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催を機に、銀座周辺の街の変化、交通体系の変化が生れています。

それらの変化に対応し、全銀座会の各団体、各店舗の企業が連携をとりあいながらオリンピック・パラリンピック対応に街全体として取り組むため、2014年、全銀座会では、プロジェクトG2020を発足しました。G2020は単にオリンピック・パラリンピック対応のためのプロジェクトではなく、2020年をきっかけとして銀座という街の価値を向上させ、長期的に銀座のブランド力を維持することを目的としています。

10年以上にわたる活動を行ってきた銀座街づくり会議はG2020とともに、銀座がその魅力を最大限に生かし、オリンピック・パラリンピック後も、未来にわたって唯一無二の、光り輝く個性を放つ街でありつづけるために新しいまちづくりビジョンを描きたいと考えています。そのため、幅広く情報を集め意見を聞く機会が必要だと考え、2016～2017年度にかけて、連続シンポジウムを開催することにしました。

それらをまとめてゆき、アクションにつなげると同時に、2019年に銀座まちづくりビジョンの発表をめざします。

主催 銀座街づくり会議／G2020

〈今後のシンポジウムのテーマ〉(予定)

建築物と広告の関係

銀座の交通とまちづくり

銀座文化の継承と発信

世界に発信するブランド力

世界に伝える銀座街づくりルール

多様化する来街者たち

まちづくりの資源とは?

その他

詳細につきましては、決まり次第

銀座街づくり会議ホームページ
(www.ginza-machidukuri.jp)

にてお知らせいたします。

なお、タイトルと順番は変更になる場合がございます。

あらかじめご了承ください。

お問い合わせは、銀座街づくり会議

〒104-0061 中央区銀座4-6-1-3F TEL 03-3567-1535 FAX 03-3563-0236 WEB <http://www.ginza-machidukuri.jp/>